

令和 3 年度 事業報告

尼崎さくら保育園 (定員 60名)					
稼働状況	入所	実績稼働率	令和 3 年度	令和 2 年度	前年度対比
		目標稼働率	121.0%	120.1%	0.9%
		差異	2.2%	1.3%	—
		延長保育利用者数	304名	197名	107名
一時	一	実績人数	令和 3 年度	令和 2 年度	前年度対比
		目標人数	419名	177名	242名
		差異	300名	300名	—
			119名	-123名	—
重点項目	<ul style="list-style-type: none"> ① 第 4 期経営 5 か年計画 (3 年目) の推進 ② “保育園のトライアングルを奏でる” 保育の実践と検証 ③ 子どもの健康管理体制の強化 ④ 防災対策を強化し子どもの命を守る ⑤ 「ネウボラ・セリジェ」の活動から未来の子育て世代を支える子育て支援への展開 ⑥ 安定した保育園運営への取り組み ⑦ 職員が成長する職場づくり 				
総括	<p>事業運営状況は、園児定員 60 名、月平均在籍数 72.2 名で前年度比 0.1% 増加、年間稼働率 120.1% であり、予算は達成することができた。</p> <p>また、一時預かり保育は、年間目標 300 名に対し、本年度は年間利用者数 419 名 (月平均 34.9 名) と昨年度より 242 名増で目標を上回る利用結果であった。</p> <p>なお、延長保育事業も積極的に実施し、年間利用者数 304 名 (月平均 25.3 名) と昨年度より 107 名増加した。本年度は、保護者の在宅ワークから現場復帰の増加も見られ利用の増加につながった。引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、子どもの福祉についても今後考える。</p> <p>② “保育園のトライアングルを奏でる” 保育の実践</p> <p>昨年度に引き続き、本年度も感染予防に努めながら、一人一人の子どもの思いに寄添い、その育ち・生活リズム等を尊重し安心して過ごせる関わりを心がけた。保育園生活は、体力づくりができるように毎日、体操やリズム運動を取組んだ。子どもたちは友達と過ごす中で、コロナ禍で行われる活動の仕方を正しく理解し、どうすればよいかを考える機会を持つことで、活動に期待を高めていくことができるように関わった。</p> <p>昨年度に引き続き、年間計画を変更する時期もあったが、保護者が子どもの成長に不安を持たないように、活動変更の都度、保護者への説明を行い、理解を得たうえで進めていったことで、保護者も状況を理解して下さり、事業の推進に協力的であった。本年度も「きょうの様子」の写真掲示を 1 週間分掲示する場所を確保したことで、保護者の方のタイミングで日々見て頂けた。「保護者がどんな保育園に預けたいのか」を職員と共に考え、安心できる関わりを引き続き考え、取組んでいく。</p> <p>③ 昨年度発症した“新型コロナウイルス”感染拡大防止対応として、保育園において“新しい生活様式”の取組みが必要とされることを踏まえ、子どもの過ごす生活環境を衛生面の徹底を中心に整えていくため、保育中の 3 密を回避した保育計画の作成、施設内 (教材・玩具類及び備品含む) の消毒作業の徹底に取り組んだ。</p> <p>園児 13 名が新型コロナウイルスに感染したが、それぞれ個別に発生した主に家庭内感染であり、園内での感染は見られなかった。園内の感染予防対策が効果的に行われているので、今後も園内設備及び玩具等の消毒作業を徹底していく。</p> <p>⑦ 職員が成長する職場づくり</p> <p>本年度の施設内研修のテーマは「子どもの想像力が広がる保育環境・身体づくりができる保育内容の充実」とし、年齢に応じた保育の環境づくりを実践するとともに怪我を未然に防ぐ力をつけ、健康な身体づくりに繋がる保育の内容の計画を立て、実践した。</p>				

令和 3 年度

事業報告書

尼崎さくら保育園

〈基本理念〉

- ① 公益的事業の積極的取組み
- ② 人権を擁護する
- ③ 発達支援・自立支援に向けたサービスの確立
- ④ 医療・教育・福祉の連携強化
- ⑤ 地域社会との共生

本年度は、当法人の基本理念に基づき第 4 期経営 5 か年計画の 3 年目として、以下の事業及び保育園 6 園共通の課題に取り組む計画を立ててスタートしたが、令和 2 年からの「新型コロナウイルス」の感染拡大が収まらず、本年度も「緊急事態宣言」の発令や「まん延防止等重点措置」の発令が続き、年度末まで保育活動にも支障が生じた。子どもの健康管理を最優先し保護者とも連携をとりながら子どもたちの成長を支える“遊びと生活”を確保していた。

事業運営状況は、園児定員 60 名、月平均在籍数 72.2 名で前年度比 0.1% 増加、年間稼働率 120.1%であり、予算は達成することができた。

また、一時預かり保育は、年間目標 300 名に対し、本年度は年間利用者数 419 名（月平均 34.9 名）と昨年度より 242 名増で目標を上回る利用結果であった。

なお、延長保育事業も積極的に実施し、年間利用者数 304 名（月平均 25.3 名）と昨年度より 107 名増加した。本年度は、保護者の在宅ワークから現場復帰の増加も見られ利用の増加につながった。引続き、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、子どもの福祉についても今後考える。

1 第 4 期経営 5 か年計画（3 年目）の評価・まとめ

本年度は、第 4 期経営 5 か年計画の 3 年目に取り組む中で、感染予防に努めながら保育の計画を立て、実践することで、子どもたちが楽しめる保育の内容となった。しかし、地域に向けた子育て支援活動は開催が難しかった。

次年度は、第 4 期経営 5 か年計画の 4 年目として「地域貢献への積極的展開」「利用者や地域から信頼され選ばれる施設を目指す」「経営基盤の自立に裏付けられた自律経営を目指す」の 3 つを重点項目に掲げ、法人理念の 5 本柱をもとに第 4 期経営 5 か年計画を積極的に推進していく。課題が挙げられた子育て支援活動は園内行事・園外行事とも実施方法の見直しなど新たな対策を講じ進めていく必要がある。経営計画の実践状況について

は経営計画検証委員会において検証していく。

2 “保育園のトライアングルを奏でる” 保育の実践

保育園は、子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な時期に、その生涯時間の大半を過ごす場所であることから子どもの最善の利益を考慮し、子どもの人権に十分配慮するとともに、子ども一人一人の人格を尊重して保育を行い、子どもの福祉を積極的に増進するに最もふさわしい生活の場であるように配慮した。また、養護の関わりは特に重要であることから“非認知的能力”を十分に育むことができる人的環境及び物的環境を整えることに努めた。

さらに、一人一人の子どもの健康保持及び増進並びに安全の確保を以下の項目に沿って実践した。

1) 子どもの人権を擁護し、子どもの笑顔があふれる保育を行う

昨年度に引き続き、本年度も感染予防に努めながら、一人一人の子どもの思いに寄添い、その育ち・生活リズム等を尊重し安心して過ごせる関わりを心がけた。保育園生活は、体力づくりができるように毎日、体操やリズム運動を取組んだ。子どもたちは友達と過ごす中で、コロナ禍で行われる活動の仕方を正しく理解し、どうすればよいかを考える機会を持つことで、活動に期待を高めていくことができるように関わった。

2) 保護者ととともに子どもを育てる楽しさを感じる保育を行う

昨年度に引き続き、年間計画を変更する時期もあったが、保護者が子どもの成長に不安を持たないように、活動変更の都度、保護者への説明を行い、理解を得たうえで進めていったことで、保護者も状況を理解して下さり、事業の推進に協力的であった。本年度も「きょうの様子」の写真掲示を1週間分掲示する場所を確保したことで、保護者の方のタイミングで日々見て頂けた。「保護者がどんな保育園に預けたいのか」を職員と共に考え、安心できる関わりを引き続き考え、取組む。

3) 職員が“保育に携わる喜びを感じる” 保育を実践し、検証することから保育の質の向上を目指す。

その都度、目的・ねらいを確認しあい、新たな取組みにもつながり充実した内容となった。月齢に応じた生活の取組みや遊びの充実を図れるよう努めたことで、遊びが広がった。

季節に応じた行事の由来を学び、子どもたちに伝えることで、子どもたちも理解が深まり、職員の達成感にもつながった。引続き、保育の目的を確認し合い、職員間で協力し合って取組む。

3 子どもの健康管理体制の強化

1) 子ども一人一人の健康の保持及び増進に取組み、子どもの命を守る。

- ① 子どもの成長を把握する「身体測定」、「各健診」を定期的を実施し、その結果を速やかに保護者と共有し、子どもの健康管理をした。
- ② 緊急事態発生時対応訓練を計画的に実施した。日ごろから、子どもの育ちに関する情報を把握し、それらをもとに発症が考えられる様々な症状“SIDS”や“アナフィラキシーショック”の対応、“大けが”発生対

応訓練を次表に沿って実施し、エピペンを持参している園児がいることから「エピペン研修」も取り入れ、不測の事態に備えた。

③ 保健・衛生に関する研修の徹底

子どもの体調の異変に気づき、急変時に適切な対応をできるよう、保育園で過ごす子どもの姿を日々、観察した。

また、「けんこう保育」を計画的に行い、けんこうな体を作るためにどうしたらいいのかを子どもたちと学ぶ機会を設けたことにより、子どもの意識は深まった。引き続き、小児保健の知識を習得し、職員全員が知識を深められるように取り組む。

【緊急事態発生時対応訓練】

実施日	訓練種類	実施内容
令和3年4月28日	SIDS 対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
5月21日	SIDS 対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
7月1日	アナフィラキシー対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
7月21日	SIDS 対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
8月30日	けいれん対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
9月21日	大げが対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
10月23日	アナフィラキシー対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
11月15日	SIDS 対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
12月15日	けいれん対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
令和4年1月14日	大げが対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練
3月18日	SIDS 対応訓練	心肺蘇生、AED、消防連絡訓練

2) 感染症対策

昨年度発症した“新型コロナウイルス”感染拡大防止対応として、保育園において“新しい生活様式”の取組みが必要とされることを踏まえ、子どもの過ごす生活環境を衛生面の徹底を中心に整えていくため、保育中の3密を回避した保育計画の作成、施設内(教材・玩具類及び備品含む)の消毒作業の徹底に取り組んだ。

3) 感染症発症時の対応は、法人の“新型コロナウイルス対応指針”に基づいて行なった。詳細については、後述する。

4 防災対策を強化し、子どもの命を守る

1) 防災対策

防災訓練では、消防署の方より、保育園が民家に囲われているため、民家が火災となった場合の訓練についての助言をいただいた。次年度は民家が火災となった時を想定した訓練を計画に入れ、より防災対策についての知識を深める。

2) 施設内外の安全管理対策の強化

施設内外の設備や用具の安全管理を徹底し、毎月「安全点検」を行い、安全管理に努めたが、ヒヤリハットへの意識は浅いことが課題と捉え、次年度はヒヤリハットへの意識を深め、事故を未然に防ぐ。

なお、毎月の消火・避難訓練・危機管理発生対応訓練は計画通り実施

した。また、本年度は、法人保育園で緊急時対応訓練として「アナフィラキシー発生時対応訓練」「けいれん発生時対応訓練」「大けが発生時対応訓練」のマニュアルを基に訓練を行い、保健面の対応について徹底することができた。

【消火・避難訓練】

実施日	訓練種類	実施内容
令和3年 4月21日	集合	平日午前（園児69名、職員17名） 非常ベルの音を知り、保育士の言葉がけで保育士のもとに集まる。
5月25日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児67名、職員20名） 階段を使用し、園庭西側に避難した。よいこネットで保護者に配信訓練をした。
6月24日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児64名、職員19名） 1階調乳室より出火、階段を使用、園庭に避難した。
7月21日	火災（防火教室） (消火・通報)	平日午前（園児69名、職員18名） 1階調乳室より出火、階段・避難滑り台を使用、園庭に避難した。園庭にて、消見学した。
8月30日	風水害	平日午前（園児57名、職員18名） 風水害により庄下側の氾濫を想定し、2階に避難した。
8月30日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児57名、職員18名） 調理室より出火、非常階段を使用、園庭に避難した。
10月4日 (9月分)	火災 (消火・通報)	平日午前（園児71名、職員19名） 調理室より出火、非常階段を使用、乳児はテラスより避難した。
9月24日	不審者 (通報)	平日午前（園児68名、職員19名） 保育士の指示に従い集合する。おはなしシアターで不審者の対応を学ぶ。
10月16日	少人数訓練 火災（消火・通報）	土曜日午前（園児18名、職員7名） 階段を使用し、玄関外に避難した。
10月30日	少人数訓練 火災（消火・通報）	土曜日午前（園児15名、職員7名） 階段を使用し、玄関外に避難した。
11月19日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児71名、職員18名） 民家より出火、階段を使用し、玄関外に避難した。
11月29日	地震	平日午前（園児65名、職員19名） 地震後の避難方法を知る。「おはしも」の確認をし、エーデルワイスまで避難しお迎え時、引き渡しカードを使用した訓練をした。
12月10日	火災 (消火・通報)	平日夕方（延長時間）（園児1名、職員2名） 調理室より出火、非常階段を使用、乳児はテラスより避難した。
令和4年 1月14日	火災 (消火・通報)	平日午後（園児71名、職員18名） 調理室より出火、非常階段を使用、乳児はテラスより避難した。
1月14日	地震	平日午前（園児71名、職員18名） 地震後の避難方法を知る。「おはしも」の確認をした。その後、名和小学校まで
2月25日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児54名、職員18名） 調理室より出火、非常階段を使用、乳児はテラスより避難した。
3月16日	火災 (消火・通報)	平日午前（園児69名、職員17名） 調理室より出火、非常階段を使用、乳児はテラスより避難した。その後、くる

5 「ネウボラ・セリジェ」の活動から未来の子育て世代を支える子育て支援への展開

1) 保育園運営力を活かした子育て支援活動の推進

子育て支援事業については検討しながらの取組みとなったが、手作り

キットの配布は大変に喜ばれた。次年度も積極的に地域の方のニーズに応える。

2) 「子どもを地域で育てる仕組みづくり」を行う

本年度は、一時預かり保育の利用者のニーズに応えられるように積極的に受け入れた。次年度も積極的に地域の方のニーズに応える。

6 安定した保育園運営への取り組み

1) 園児の確保に取り組む

くすみ保育園からの転園に加え、保護者からの紹介やホームページから園児確保につながったので、引き続き、保護者や地域へのアピールをする。

2) 地域に必要とされる社会福祉施設になる

地域に奉仕する活動として、本年度も年 2 回のクリーン作戦に参加、毎月、園児と保育園職員で近隣の公園や保育園周辺の清掃を行った。また、高齢者施設訪問や保育園周辺の高齢の方のお宅を訪問し、玄関先でプレゼントや保育園で収穫したサツマイモをお渡し喜ばれた。引き続き、地域の奉仕活動を積極的に取り組む。

7 職員が成長する職場づくり

1) 法人基本理念の周知・徹底

社会福祉法人の職員として、基本理念の大切さを再度伝え、日々の業務が理念に沿って進められているかを毎月のスタッフ会議で話し合い、基本理念に沿って保育を進められているかの確認や大切さを学ぶことができた。

2) 職員のやりがいがある職場環境づくりに努める

保育園職員委員会を中心に、職員が働きやすい環境を作るために“毎月のテーマ”を掲げたことで、職員間の協力体制や声を掛合う関わりが増え、働きやすさを職員が感じていた。引き続き、テーマを掲げ、働きやすい環境づくりに努める。

3) 保育所保育指針に基づく職員の資質向上の推進

本年度の施設内研修のテーマは「子どもの想像力が広がる保育環境・身体づくりができる保育内容の充実」とし、年齢に応じた保育の環境づくりを実践するとともに怪我を未然に防ぐ力をつけ、健康な身体づくりに繋がる保育の内容の計画を立て、実践した。

昨年度に引き続き、保育技術の向上を目的としたテーマを決めて「学びあい研修」を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、後半は 6 園合同の研修は中止となり、各園でテーマ性をもった研修を取入れた。

【学びあい研修】

実施日	研修内容	講師
令和 3 年 7 月 14 日	「ピアノ」	太田主任保育教諭
21 日	「生きもの飼育」	先東副主任、加藤保育士
28 日	「おりがみ」	田中保育教諭

8月3日	「リトミック」	東谷主任保育士
6日	「わらべうた・手遊び」	矢野主任・小林保育士
20日	「アンガーマネージメント」	羽柴保育教諭
28日	「離乳食・小児保健」	中野厨房主任・久岡主任看護師

4) 園内委員会

従事職員一人一人に事業運営を分担し、全職員が委員会活動を行ったが、委員会の目的が多岐にわたりすぎており、業務内での委員会開催が難しい問題が出てきた。委員会の意義・目的を職員全員で話し合い、理解を深める取り組みが必要である。

本年度も「保育園職員委員会」を設け、“働きやすい環境を作るためのテーマ”を掲げることで、職員間で支えあい、声を掛合う関係作りにつながったので、各々の委員会に対しても改善の意見が交わしやすくなった。次年度もテーマ性をもって、取り組む。

5) 人事考課制度の効果的運用

業務に対する自己評価及び考課者との面談を通して自己の業務についての分析、目的意識の明確化を図り、向上を培うことができた。また、考課者はOJTでの指導を通して、キャリアパス及び職員一人一人の資質を捉えた職員育成に積極的に取り組んだ。

8 新型コロナウイルス感染予防対策

新型コロナウイルスの感染予防対策として、園児の健康管理（検温、手洗いの励行）、職員の健康管理（健康チェック表で出勤時の体温体調変化の状況を管理）、来園者の健康チェック（検温・消毒）、常時換気に努めた。

新型コロナウイルスの罹患者は園児13名となったが、主に家庭内感染でありまた本児のみの感染で留まり、園内感染には繋がらなかった。園内の感染予防対策が効果的に行われているので、今後も園内設備及び玩具等の消毒作業を徹底していく。

【新型コロナ陽性者発生時の対応状況】

- ① 令和3年7月24日
 - ・ 園児1名陽性が判明した。家庭内感染および休日中の発症のため濃厚接触者はいない。
- ② 令和3年8月11日
 - ・ 園児1名陽性が判明した。家庭内感染および休日中の発症のため濃厚接触者はいない。
- ③ 令和4年2月3日
 - ・ 園児1名陽性が判明した。家庭内感染、家庭保育中の発症のため濃厚接触者はいない。
- ④ 令和4年2月4日
 - ・ 園児1名、降園後発熱し翌日PCR検査をした結果、新型コロナウイルス陽性であるとの報告を受ける。
 - ・ 尼崎市に報告し指示を仰いだ。濃厚接触者の特定者はいなかった。
- ⑤ 令和4年2月8日
 - ・ 園児1名、夕方発熱し、降園後受診を促しPCR検査をした結果、

新型コロナウイルス陽性であったと報告を受ける。

- ・ 尼崎市に報告し指示を仰いだ。濃厚接触者は園児 1 名となったが自宅待機中、体調の変化はなかった。
- ⑥ 令和 4 年 2 月 8 日
- ・ 園児 1 名陽性が判明した。家庭保育中の発症のため濃厚接触者はいない。
- ⑦ 令和 4 年 2 月 10 日
- ・ 園児 1 名、保育中に発熱し、PCR 検査の結果、新型コロナウイルス陽性であったと報告を受ける。
 - ・ 濃厚接触者は園児 2 名。自宅待機中、体調の変化はなかった。
- ⑧ 令和 4 年 2 月 10 日
- ・ 園児 2 名陽性が判明した。家庭保育中の発症のため濃厚接触者はいない。
- ⑨ 令和 4 年 2 月 14 日
- ・ 園児 1 名陽性が判明した。家庭保育中の発症のため濃厚接触者はいない。
- ⑩ 令和 4 年 2 月 15 日
- ・ 園児 1 名陽性が判明した。家庭保育中の発症のため濃厚接触者はいない。
- ⑪ 令和 4 年 2 月 18 日
- ・ 園児 1 名、保育中に発熱、PCR 検査の結果、新型コロナウイルス陽性であったと報告を受ける。
 - ・ 濃厚接触者は園児 3 名。自宅待機中、体調の変化はなかった。
- ⑫ 令和 4 年 2 月 24 日
- ・ 園児 1 名陽性が判明した。休日中の発症のため濃厚接触者はいない。